

## 高村光太郎

東京生まれ。大正から昭和にかけて活躍した詩人、彫刻家。父は高名な彫刻家・高村光雲。東京美術学校(現・東京藝術大学)卒業後、ヨーロッパやアメリカに遊学し、近代彫刻の巨匠・オーギュスト・ロダンの影響を受けた。帰国後、詩と美術の両面にわたって創作活動を行うとともに、欧米の芸術の紹介、美術批評と幅広く活躍し、当時の芸術界に大きな影響を与えた。詩では、詩集「道程」や妻の智恵子亡き後に発表した「智恵子抄」などで有名。彫刻では、青森県・十和田湖畔にある「乙女の像」や「手」などのブロンズ像のほか、野菜や果実、魚や鳥などの木彫作品がある。